



図書館のこれからの 5 年間の計画を立てています。ご意見おまちしています。

第 2 次真庭市図書館みらい計画（真庭市図書館基本計画・子ども読書活動推進計画）

2026.1.12 版

柱 1 本と出会える場所になる

【公共図書館としての存立基盤の整備】



○市民参画・協働

市民の誰もが「図書館があってよかった」と思えるように、市民との対話、協働をつうじたよりよい図書館づくりをめざします。

○「持続可能」な図書館運営

限られた人員と予算という厳しい状況が続く中で、質の高い図書館運営を持続していくための体制をつくっていく必要があります（「縮充」）。

（1）市民との対話をつうじて、地域自治の拠点としての図書館を育てていきます

（2）持続して図書館を運営できる体制を整えます

（3）市民が自らの課題に気づき、解決していくための資料や情報を提供します

（4）地域の中で図書館サービスを展開します

（5）すべての人に開かれた図書館サービスを構築します（読書バリアフリーの推進）

基本方針
具体的な事業は裏面に

柱の重要キーワードと説明

2 子ども・若者が育つ場所になる

【子どもの学びへの能動的な貢献・子どもの読書活動推進】

○「こどもまんなか」

子どもと本との出会いの可能性を広げ、育ち、学ぶ権利を保障します。同時に、子どものやってみたいが尊重される、子ども・若者の居場所ともなることをめざします。

○学校図書館支援

学校は子どもたちにとってもっとも身近な本との出会いの場です。読書センターとしての学校図書館機能をさらに充実させるとともに、授業への学校司書の参画など、学習センター・情報センターとしての機能を高める支援を行い、生涯にわたって読み、調べる基礎を育てます。

（1）乳幼児親子が本に出会い、親しめる環境を整えます

（2）児童生徒がいつでも読み、調べられる環境を整えます

（3）ユース世代が、図書館でいろいろな本や人に出会う機会をつくります

（4）子どもが安心して居られる場所になります



【真庭市立図書館の使命】

市民と団体による

地域自治の拠点として
積極的な役割を果たします



「市民や団体による地域自治」とは、市民がさまざまな情報を共有し、対話を重ね、必要な資源をもちよることで、地域にかかわる取り組みを行っていくことです。

真庭市立図書館は、市民の知る自由と学ぶ権利の保障の基盤となる資料の収集と提供、多様な企画の実施などを通じて、地域自治の拠点として、その取り組みを支えます。これは、真庭市がめざす「真庭ライフスタイル（多様な真庭の豊かな生活）」の実現につながるものです。



「応え」(response) あうなかで、
「答え」(answer) が生まれてくる場に

← 継続
します

●計画の位置づけ

1 計画策定の背景

真庭市立図書館は、2021 年 5 月に策定した「真庭市図書館みらい計画（真庭市図書館基本計画・子ども読書活動推進計画）」（以下「図書館みらい計画」という。）に基づき運営してきました。

この計画の策定は、コロナ禍の真っただ中でした。図書館が活発に利用されればされるほど、感染のリスクを高めてしまうのではないかと、との不安を抱えながらのスタートでした。以来、5 年、市民とともに対話を重ね、知恵をしぼりながら事業を展開してきました。

まず、中央図書館を中心とした全 7 館と自動車文庫「ブックるんまにわ」による市内の図書館サービス網を整備し、真庭市立図書館として一体的に運営する基盤を整えてきました。市内の図書館だけでなく、近隣自治体の図書館や岡山県立図書館をはじめ、全国の図書館や国立国会図書館、関係機関等とも連携し、市民の読書や知的探究を支えています（※ 1）。2023 年には、市内 26 の小中学校すべてに蔵書管理システムを導入し、搬送便を開始しました。これにより、学校図書館から市内全蔵書の検索が可能となり、学校図書館を通じて子どもたちがより多様な図書を利用することができるようになりました。

た。さらに、図書館という場のさまざまな使い方や可能性を提案し、市民と一緒に人々の交流や活動の場となるよう努めてきました。

みらい計画に基づいたこれらの実践により、2024 年には「Library of the Year2024」優秀賞（※ 2）を受賞するなど、市の内外から一定の評価を得ています。

図書館みらい計画策定から 5 年が経過し、2024 年度末には真庭市の将来像を示す最上位の計画である「第 3 次真庭市総合計画（2025-2029）」が策定されました。そこで、図書館でもこの 5 年間で市民とともに振り返り、次の 5 年間の図書館運営の指針を定めることにしました。

引き続き、市民の知る自由と学ぶ権利の保障の基盤となる資料の収集と提供（※ 3）という公共図書館の役割を果たしつつ、地域自治（市民が地域のさまざまな情報を共有し、対話を重ね、地域に必要な取り組みを行っていくこと）を支える拠点となるべく、市民とともに図書館を運営、発展させていくことを目指して、「第 2 次真庭市図書館みらい計画」（以下「第 2 次みらい計画」という。）を策定します。

※ 1 図書館とは「図書、記録その他必要な資料を収集し、整理し、保存して、一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とする施設」（図書館法第 2 条）

※ 2 NPO 法人知的資源イニシアティブが、これからの図書館のあり方を示唆するような先進的な活動を行っている機関に対して授与する賞。

※ 3 図書館は、日本国憲法が掲げる、知る権利、学問の自由および学ぶ権利の保障を、日常的な情報提供を通じて具体化する施設である。また、「図書館の自由に関する宣言」（日本図書館協会）では、「図書館は、基本的人権のひとつとして知る自由をもつ国民に、資料と施設を提供することを、もっとも重要な任務とする」としています。

参考：○日本国憲法
第二十一条 集会、結社及び言論、出版その他一切の表現の自由は、これを保障する。
二 検閲は、これをしてはならない。通信の秘密は、これを侵してはならない。
第二十三条 学問の自由は、これを保障する。
第二十五条 すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。
二 国は、すべての生活部面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない。
第二十六条 すべて国民は、法律の定めるところにより、その能力に応じて、ひとしく教育を受ける権利を有する。
二 すべて国民は、法律の定めるところにより、その保護する子女に普通教育を受けさせる義務を負ふ。義務教育は、これを無償とする。
○「図書館の自由に関する宣言」（日本図書館協会）1954 年採択 1979 年改訂
図書館は、基本的人権のひとつとして知る自由をもつ国民に、資料と施設提供することを、もっとも重要な任務とする。
この任務を果たすため、図書館は次のことを確認し実践する。
第 1 図書館は資料収集の自由を有する。
第 2 図書館は資料提供の自由を有する。
第 3 図書館は利用者の秘密を守る。
第 4 図書館はすべての検閲に反対する。
図書館の自由が侵されるとき、われわれは団結して、あくまで自由を守る。

2 計画の位置づけと計画期間

（1）上位計画との関係

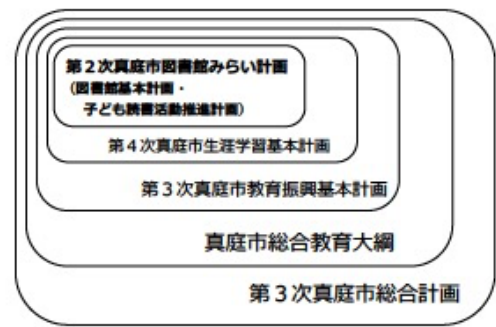
第 2 次みらい計画は、「第 3 次真庭市総合計画」（2025 年 4 月策定。以下「真庭市総合計画」という。）、「真庭市総合教育大綱」（2016 年 7 月策定。）、「第 3 次真庭市教育振興基本計画」（2022 年 4 月策定。）、「第 4 次真庭市生涯学習基本計画」（2022 年 3 月策定）に基づいています。

（2）子ども読書活動推進計画の内包について

本計画は、「子どもの読書活動の推進に関する法律」（2001 年法律第 154 号）第 9 条 2 項に基づく真庭市の子ども読書活動推進計画を内包します。

（3）計画期間

本計画の取組期間は、2026 年度から 2030 年度までの 5 年間とします。計画期間中も、真庭市総合計画の進捗や社会状況の変化を反映し、市民参画による見直しを行っていきます。



3 地域(まにわ)と出会える場所になる

【地域資源の再評価と新たな価値の創出】

○市民と創る

市民が持つ地域に関する記憶、知恵、文化を、市民とともに、楽しみながら記録・蓄積・発信をしていきます。

（1）地域の人たちと一緒に地域の文化・歴史・くらしを再発見し、あらたな価値を創ります

（2）劣化が進む郷土資料のデジタル化を進めます

4 いつでも学べる場所になる

【知的探究に応えるコンテンツ戦略】

○知る・学ぶ機会の共創

学びを支える基盤を整備し、情報へのアクセスを可能にするとともに、さまざまな機関との連携により、多様な学びの機会を創出します。

（1）誰もが学びやすい環境を整えます

（2）いろいろな団体や組織等と連携して市民の学ぶ機会を増やします



5 誰かとつながる場所になる

【市民が繋がる地域交流拠点創出】

○社会的包摂

年齢、性別、障害、民族など多様な背景や経験を持つ人々にとっての居場所ともなり、出会い、交流し、関係を育むことができる場になります。

○「人口×活動量」

市民の居場所、市民の「やってみたい」に応える場であることをめざします。

（1）市民の「やってみたい」に応えます

（2）用事がなくても気軽に「行ってみよう」と思われる図書館になります

（3）人が集うところへ出向き、図書を通じた交流の場をつくります

（4）多様な背景や経験を持つ人々が交流できる場になります



1 使命

【真庭市立図書館の使命】

市民と団体による地域自治の拠点として積極的な役割を果たします

「市民や団体による地域自治」とは、市民がさまざまな情報を共有し、対話を重ね、必要な資源をもちよることで、地域にかかわる取り組みを行っていくことです。

真庭市立図書館は、市民の知る自由と学ぶ権利の保障の基盤となる資料の収集と提供、多様な企画の実施などを通じて、地域自治の拠点として、その取り組みを支えます。

これは、真庭市がめざす「真庭ライフスタイル（多様な真庭の豊かな生活）」（＊）の実現につながるものです。

＊真庭ライフスタイル：すべての「人」が、安全に安心して暮らせる「まち」で、自分や家族、そして地域を大切に思い、時代や環境に合わせて、地域資源の中から真庭市で生きる価値を見つけること。自分の手で創り上げていく「生き方」、誇りをもって生きていく「考え方」、互いを尊重した「暮らし方」のことであり、今の私たちの生活の中にあるものです。」（真庭市総合計画より）

2 行動の柱

使命を果たすために、次の5つの柱を設定します。

柱1 本と出会う場所になる

【公共図書館としての存立基盤の整備】

○市民参画・協働

市民の誰もが「図書館があってよかった」と思えるように、市民との対話、協働をつうじたよりよい図書館づくりをめざします

○「持続可能」な図書館運営

限られた人員と予算という厳しい状況が続く中で、質の高い図書館運営を持続していくための体制をつくっていく必要があります（「補充」）

（1）市民との対話をつうじて、地域自治の拠点としての図書館を育てていきます

①市民との対話

- ・カウンターやフロアでの日常的なやりとり
- ・「図書館そだて会議」の開催 等

②有識者を交えて図書館の運営について協議・検証

- ・図書館協議会の開催 等

（2）持続して図書館を運営できる体制を整えます

①人材確保のための条件整備

- ・正規司書職員の継続的な確保
- ・社会教育や地域活動のコーディネーションなどの専門職の確保 等

②図書館職員のスキルアップ

- ・司書の資質向上をめざした体系的な研修の受講
- ・社会の変化に対応した図書館サービスを提供するための研修の受講
- ・日常業務のなかで職員同士が学びあえる環境の整備 等

③地域事情や利用実態などに合わせた図書館運営

- ・開館日数や開館時間の見直し 等

（3）市民が自らの課題に気づき、解決していくための資料や情報を提供します

①生活や仕事に関わる様々な課題の発見と解決の支援に役立つ選書と情報提供

- ・資料の貸出、レファレンス、図書のテーマ展示、講座等の実施

- ・図書館のサービス内容の周知、発信強化 等

②市民による市の施策の理解と市政への参加の支援

- ・市主催の講座や催事等での資料・情報の提供
- ・図書館の行政資料コーナーの整備・提供
- ・市職員や議員への資料や情報の提供、レファレンス
- ・市民が市の取り組みを知り、考えるための資料展示

・市内の産業や取り組みをSDGsの視点で捉え直す資料収集と企画展示 等

③市民のICTメディアリテラシーの向上の支援

- ・ICTが苦手な人に向けた情報機器やアプリの使い方、SNSや生成AIに関する講習会の開催
- ・進化し続ける情報化社会への対応や情報格差をなくすような講習会等の開催 等

（4）地域の中で図書館サービスを展開します

①自動車文庫の運行

- ・巡回先、巡回ルートの見直しなど、利用実態にあわせての運行を継続 等

②市民の地域拠点や人が集う場所への図書館資料の提供

- ・公民館やコミュニティセンター等への団体貸出等

（5）すべての人に開かれた図書館サービスを構築します（読書バリアフリーの推進）

①アクセシブルな資料（大活字本、音訳・点訳資料、布絵本など）の提供

②年齢、性別、障害、民族など多様な背景や経歴を持つ人たちが図書館サービスを利用できる環境の整備

- ・バリアフリー機器の導入検討
- ・図書を届ける仕組みや来館しなくても利用できるサービスの検討
- ・「LL版（やさしくよめる）利用案内」の作成
- ・「やさしい日本語」の活用
- ・案内表示は大きく見やすく、色の組み合わせに注意する

・ホームページのアクセシビリティの向上 等

③読書バリアフリーについての啓発

- ・読書バリアフリーに関する資料や情報の提供
- ・読書バリアフリーに関する講座・講演会、上映会等を開催
- ・庁内関係部局や市民団体等との連携による情報提供や啓発企画の実施 等

④外国ルーツの人たちへのサービス

- ・多言語の資料や情報の提供
- ・日本語学習に関わる資料の提供
- ・庁内関係部局や市民団体等と連携し、現状やニーズを把握 等

柱2 子ども・若者が育つ場所になる

【子どもの学びへの能動的な貢献・子どもの読書活動推進】

○「こどもまんなか」

子どもと本との出会いの可能性を広げ、育ち、学ぶ権利を保障します。同時に、子どものやってみたいが尊重される、子ども・若者の居場所ともなることをめざします。

○学校図書館支援

学校は子どもたちにとってもっとも身近な本との出会いの場です。読書センターとしての学校図書館機能をさらに充実させるとともに、授業への学校司書の参画など、学習センター・情報センターとしての機能を高める支援を行い、生涯にわたって読み、調べる基礎を育てます。

（1）乳幼児親子が本に出会い、親しめる環境を整えます

①乳幼児を連れた人たちが図書館へ出かけてみたくなる工夫

- ・授乳室、おむつ替えコーナー等の分かりやすい表示
- ・乳幼児保護者向け図書館利用案内の作成・配布
- ・保護者向け資料の充実 等

②本や物語との出会いや保護者同士の交流の機会づくり

- ・図書館員やボランティアによる「おはなし会」の実施
- ・真庭市愛育委員会による乳児家庭への訪問（ブックスタート事業）への協力
- ・市主催の母子保健事業を図書館で開催 等

③保育士や幼稚園教諭を対象とした図書館サービスの充実

- ・保育士や幼稚園教諭向けの絵本講座実施 等
- ④保育園、幼稚園、こども園への自動車文庫の乗り入れや団体貸出

（2）児童生徒がいつでも読み、調べられる環境を整えます

①学校図書館への支援

- ・学校司書の授業への参画
- ・学校と市立図書館間での資料搬送の継続、充実
- ・学校間での資料搬送の実施
- ・教員向け資料の収集・貸出
- ・子どもの発達や個性に応じた多様な資料提供へのサポート 等

②学校司書による学校図書館運営スキルの向上

- ・学校司書の資質向上のための研修機会の充実
- ・連絡会や授業見学等、学校司書同士が互いに学び合う機会の充実 等

③放課後児童クラブ等への、自動車文庫の乗り入れや団体貸出の充実

（3）ユース世代が、図書館でいろいろな本や人に出会う機会をつくります

①ユースの興味・関心に応える資料・情報の提供

- ・中高生へのヒアリングをもとにティーンズコーナーの資料の見直し
- ・学習に役立つ資料の充実

②ユースが過ごしやすい環境づくり

- ・学習スペースや休憩スペースの充実 等

③中学、高校、大学、ユースセンターなどと連携した企画の開催

- ・職場体験の受け入れ
- ・中学や高校の図書委員による市立図書館での図書展示
- ・ユースの「やってみたい」を実現する取り組みの実施 等

④ユースに関わる専門職（ユースワーカーなど）との協働

- ・図書館での進路相談会の実施 等

（4）子どもが安心して居られる場所になります

①一人でも、友だちとでも安心して過ごせる環境の整備

- ・子どもたちを見守る人の確保 等

②子どもの成長と興味にあわせた、多様なジャンルの資料を収集・提供

③子どもの意見を聞きながら、「やってみたい」を実現する取り組みの実施

- ・子ども発案のイベントを子どもと一緒に企画・実施 等

柱3 地域（まにわ）と出会う場所になる

【地域資源の再評価と新たな価値の創出】

○市民と創る

市民が持つ地域に関する記憶、知恵、文化を、市民とともに、楽しみながら記録・蓄積・発信していきます。

（1）地域の人たちと一緒に地域の文化・歴史・くらしを再発見し、あらたな価値を創ります

①地域の人たちに話を聞いて記録、発信していく

- ex.「まにわ図書館ラジオ」の展開
- ※図書館に集うさまざまな人に話をうかがい、真庭を再発見するラジオ番組。真庭にまつわる話やお気に入りの本の話など、まちや本にまつわるおしゃべりを繰り広げる。当日の生放送は図書館内のみ。後日、図書館ホームページでアーカイブ放送あり。

②地域の歌や踊りを記録し、伝えていく

- ex.「真庭校歌研究室」の継続
- ※市民と一緒に、市民からの情報提供により、真庭市内にある（あった）学校情報の収集と整理、校歌の音源、作詞者、作曲者、エピソードなど（以下、「校歌情報」とします）を図書館の地域資料として収集するもの。収集した効果情報は図書館ホームページで発信している。

③地域の人たちが作った資料を保存し、誰でも見ることができるようにしていく

- ex.「ジモスタブックス」の充実
- ※地元（ジモト）の方々が、地元（ジモト）のことを調べて発行された資料を収集し、図書館ホームページでも読めるようにしている取り組み。

④郷土資料の図書館への寄贈の呼びかけ

- ⑤収集・保存した資料を活用して真庭の魅力を発信する
- ・地元の多彩な産業や商業、伝統工芸の魅力を再発見、発信するイベントや企画の開催

（2）劣化が進む郷土資料のデジタル化を進めます

①図書館が所蔵する紙の郷土資料をデジタル化、保存、活用する環境を整える

- ・デジタル化の基準や作業方法を示したマニュアルを作成
- ・継続して実施していける体制の検討 等

柱4いつでも学べる場所になる

【知的探究に応えるコンテンツ戦略】

○知る・学ぶ機会の共創

学びを支える基盤を整備し、情報へのアクセスを容易にするとともに、さまざまな機関との連携により、多様な学びの機会を創出します。

（1）誰もが学びやすい環境を整えます

①市民の「知りたい・調べたい」に応じたサービス

- ・資料の探索、探索方法の案内、関連・専門機関の紹介など調べもののサポート（レファレンス）
- ・真庭市内のほか、他自治体図書館や国立国会図書館等からの資料取寄せ
- ・暮らしに役立つ情報、時事的・社会的な内容など多様なテーマでの関連図書展示
- ・市民が互いに教えあい、学びあう機会をつくる等

②全図書館でのwi-fi環境の維持

③関連部局と連携し、学びのスペース充実を検討

（2）いろいろな団体や組織等と連携して市民の学ぶ機会を増やします

①大学や美術館・博物館等社会教育機関等との連携企画を開催

- ex.「ライブラリーそもそトーク」
- ※さまざまな分野の専門家や研究者を招いて開催する講演企画。
- ・放送大学との連携講座の実施
- ・蒜山郷土博物館や津黒いきものふれあいの里などとの連携企画 等

柱5 誰かとつながる場所になる

【市民がつながる地域交流拠点創出】

○社会的包摂

年齢、性別、障害、民族など多様な背景や経歴を持つ人々にとっての居場所ともなり、出会い、交流し、関係を育むことができる場になります。

○「人口×活動量」

市民の「やってみたい」に応える場であることをめざします。

（1）市民の「やってみたい」に応えます

①市民の発案によるイベントやプログラムの開催支援

- ex.「勝山もちより盆踊り」
- ※市民有志とともにコロナ禍で休止していた勝山地区の盆踊りを復活させた取り組み。

②社会教育や地域活動のコーディネーションの専門性を持ったスタッフの確保

- ・ミッション型地域おこし協力隊の募集

（2）用事がなくても気軽に「行ってみよう」と思われる図書館になります

①思いがけない本との出会いを創出

- ・多様なテーマでの図書展示
- ・イベントや企画にあわせた関連図書の展示

②居心地のよい環境の整備

- ・館内レイアウトの工夫（分かりやすい棚出し、椅子や机、観葉植物やこたつの設置等）
- ・BGM等快適な音環境の工夫
- ・利用者が目的に合わせて過ごせるようなゾーニング（静かに利用できるエリアと会話や活動ができるエリア等）

③利用者と図書館職員との日常的なコミュニケーションを大切にす

（3）人が集うところへ出向き、図書を通じた交流の場をつくります

①市民が集まる地域のイベント等への参加

- ・イベント等への自動車文庫の出動
- ・講演会会場等へ出向いての関連図書の展示と貸出 等

（4）多様な背景や経歴を持つ人々が交流できる場になります

①市民が日常生活の中で関わる機会が少ない、年齢、性別、障害、民族など多様な背景や経歴を持つ人々と出会い、互いを理解しあえる場をつくる

- ex.「ないまぜマルシェ」への協力
- ※障害のある人もない人も一緒にたのしめるマルシェやワークショップイベント。
- ・多様な文化や芸術・芸能等を紹介する企画、体験できる企画の実施
- ・さまざまな国や文化をテーマとした映画の上映
- ・多世代が交流できるような企画（昔あそびや昔話の語りなど）の実施 等

3 図書館運営の評価方法

真庭市立図書館では、本計画に沿った図書館の活動を次の4つの指標により評価していきます。

（1）図書館があつてよかったと思う市民の割合

真庭市立図書館が使命とする「地域自治の拠点」としての役割を果たしている状態とは、市民が直接図書館を利用するという場面だけでなく、図書館と多様な関りを持ち、それをよいと感じていることを意味します。

「離れて一人で暮らす親が図書館へ行くことを日課にしている安心している」「市外に住む知人に真庭市の図書館はすごいねと言われた」など、一人でも多くの市民に、さまざまな理由で、「真庭市に図書館があつてよかった」と思ってもらうことをめざします。

調査方法＝毎年度アンケート調査を実施。回答者数のうち図書館があつてよかったと思う市民の割合を算出

（2）市民や団体との事業の内容、開催数と参加人数

市民との対話を重ね、「やってみたい」に応えていく図書館となっているかを知るために、市民、団体とともに企画・実施した事業の内容や開催数、参加人数を確認していきます。

（3）実貸出利用率

真庭市民のうち、一年間に一度でも図書館資料を借りた人の割合を示す数字です。「図書館みらい計画」では、5年間で平均10.9%でした。次の5年間は、この数値を目安として市民の図書館利用状況を確認しつつ、図書館運営の改善に役立てます。

（4）市民による評価点と課題

先に挙げた3つの指標は、図書館の活動を定量的に測るものです。このほかに、図書館の様々な活動によって地域や市民にどのような変化が表れたのかを知り、業務の改善や新たな活動につなげていくことが大切です。そこで、アンケート調査や図書館協議会での意見聴取、「図書館そだて会議」を最低年に1回開催することで、市民と図書館が対話を重ね、各館の評価点と課題を挙げることで定性的な評価を行い、市民とともに図書館の運営状況を点検していくこととします。

(1) 意見聴取状況

10月4日(土) 9:00～15:00	勝山高校 鼓山祭にてヒアリング	98人(うち高校 生 80人、中学生 18人)
10月9日(木) 10:00～12:00	図書館そだて会議 @久世図書館	8人
10月16日(木) 10:00～12:00	図書館そだて会議 @落合図書館	7人
10月17日(金) 15:35～16:50	図書館そだて会議 @美甘図書館	5人
10月18日(土) 16:30～17:30	図書館そだて会議 @中央図書館	13人
10月23日(木) 10:00～11:45	図書館そだて会議 @北房図書館	5人
10月24日(金) 14:00～15:40	図書館そだて会議 @蒜山図書館	9人(ほか小学生から事前の聴き取り 90人)
10月28日(火) 14:00～16:00	図書館そだて会議 @湯原図書館	3人
10月中	市役所各部署からの意見聴取	提案 3件
10月中	全館で来館者アンケート&ヒアリング	107人

(2) 意見聴取の内容

① 勝山高校文化祭でのヒアリング

2025年10月4日でのヒアリング

回答者／中学生 18人、高校生 80人

問1：どんな時に図書館に行っていますか

全体の半数(約50%)が「勉強・学習目的」、次が「本を借りる・読む(約28%)」でした。

分類	件数	内容
勉強・学習・テスト	43	「勉強」「テスト期間」「学習」「課題」「受験勉強」など
本を借りる・読む	24	「本を借りる」「読みたい時」「読書感想文」など
調べもの・研究	5	「調べもの」「作文」「研究」「本の下見」など
友だち・遊び・待ち合わせ	5	「友だちと」「遊ぶ」「待ち合わせ」など
余暇	6	「ひまなとき」「時間がある時」「学校帰り」など
学校・授業関連(課題や行事)	3	「小学校で」「課題のため」「学校帰り」など

問2：図書館があって良かったと思う理由

最も多いのは「勉強・集中できる」と「本が読める・借りられる」で、全体の約6割を占めました。これに「静かで落ち着く」や「身近で便利」「調べものができる」といった安心感や利便性などが続きました。

分類	件数	内容
勉強・集中・学習できる	27	「集中できる」「勉強がはかどる」「学習できる」「落ち着いた環境」
本が読める・借りられる	24	「たくさん本をよめる」「感想文の本がある」「無料で本が読める」
静か・落ち着く・安心	12	「静か」「落ち着く」「心が落ち着く」「こたつがある」「すずしい」
調べもの・情報が得られる	7	「調べられる」「ネットにない情報」「いい本を教えてもらえる」
居場所・環境として良い	7	「身近にある」「過ごす場所がない」「時間がつぶせる」「便利」
その他(感動・文化・親子など)	6	「泣ける小説」「映画祭」「絵本」「子どもと来る」「仕事の合間」

問3：あったらいいな、こういうことがしたいな、などなど自由に書いてください

多かったのは、「勉強環境・学習スペースの充実」、「電子書籍や参考書などの充実」、「カフェや飲食を含むリラックス空間」でした。

○主な内容

【学習・勉強環境(計12件)】

- ・個室、学習スペース(地区館で)／3件
- ・静かに集中できる勉強場所の充実／2件
- ・パソコンを使える場所
- ・参考書・過去問・赤本・勉強系の本／4件
- ・学術書・古文・漢文・新書などを増やす
- ・英会話ができる場所

【本・資料の充実に関すること(計13件)】

- ・電子で借りられる(電子書籍)／3件
- ・どの本があるかわかるマップや検索システム
- ・本の配置をわかりやすく(ジャンル表示・データ化)／2件
- ・自分が読みたい本をリクエストしたい
- ・感動系・若者向け・アニメ化された本などをまとめる／3件
- ・海外の本や翻訳本を増やす
- ・ライトノベルが読みたい
- ・短編集・TikTokで紹介される本など

【飲食等に関すること(計17件)】

- ・カフェ、テラスやベランダでコーヒーを飲める／3件
- ・お菓子・チョコ・スナック・アイスの自販機／3件
- ・飲食・イートインスペースを増やす／2件
- ・ドーナツ屋
- ・カップラーメン・軽食を食べたい
- ・飲食店、食べもの／2件
- ・ヨギボー・座れる場所などリラックス空間
- ・遊具(すべり台など)
- ・自分だけでいられる個室空間
- ・十分・満足／2件

【イベント・活動に関すること(計6件)】

- ・スタンプラリー・クイズなど／3件
- ・景品やしおりがもらえる仕組み
- ・地域の人や小さい子とワイワイできる日
- ・本のおすすめを探せるイベント

【メディア・映像(計4件)】

- ・テレビで何か見られるとよい
- ・面白い映画の上映／3件

【文化・創作(計2件)】

- ・書道や絵など本以外の文化にふれられる場所

- ・クイズ・文化祭系イベントを継続して

【その他(計4件)】

- ・特にない・十分です／4件

②全館アンケート・ヒアリング 図書館そだて会議やカウンターにて

回答者／そだて会議 50人、小学生からの事前聴き取り 90人、来館者アンケート&ヒアリング 107人 計 247人

問1：図書館のこんなところがいい、こんなところがすき、ということがあったら教えてください。

最も多いのは「本が読める・借りられる」で、一般の方からは取り寄せるの利便性がよいという意見が多く出ていました。続いて「居場所・環境として良い」「静かで落ち着く」など場所としての評価をいただきました。

分類	件数	内容
本が読める・借りられる	33	「たくさん本をよめる」「本の取り寄せをしてくれる」「無料で本が読める」
居場所・環境として良い	15	「きれい」「明るい」「広い」「ゆっくり過ごせる」「便利」
静か・落ち着く・安心	14	「静か」「落ち着く」「ゆっくりできる」
調べもの・情報が得られる	6	「調べられる」「知識が得られる」
勉強・集中・学習できる	5	「集中できる」「学習スペースが使いやすい」「オンライン学習ができる」
その他	9	「企画・イベントが楽しい」「職員の対応がいい」「友達づくりできる」

問2：図書館にあったらいいなと思うもの、もっとこうなったらいいなと思うことはありますか

多かったのは、「地区館の環境整備について」、「本資料の充実」、「イベント・活動の充実」でした。

○主な内容

【環境整備に関すること(計42件)】

- ・メディア視聴ができること／3件(メディア視聴は久世のみ可能)
- ・開館時間を長くする／4件
- ・運転免許返納した時に身近なところまで本を届けてもらえるシステム／2件
- ・ディスプレイとコードの貸出
- ・冷房をもっと効かせる
- ・本の内容、ジャンル検索ができるという
- ・イベントが増えて静かな空間がなくなるのはやめて
- ・車椅子の方が手に取りやすい本の配置
- ・図書館に行けない人に本の郵送サービス
- ・不登校の子どもの居場所となれるよう個室等、個の空間を検討してはどうか
- ・どの図書館でもWi-Fiが使えるようにする
- ・本をおすすめしてくれるAIシステム
- ・書架表示のプレートにイラストを加える
- ・学習障害の子ども達が本に接することができるような環境作り
- ・会議室開放ではなく学習室(北房)
- ・学習室の開館時間延長(北房)
- ・座って調べるための椅子(北房)
- ・Wi-Fiの電波状況を改善する(北房)
- ・声を出して本を読める場所(落合)
- ・中央館くらの規模の図書館(落合)
- ・ソファ・座り心地のいい椅子(落合)
- ・個人で使える机(落合)
- ・ホールやケーブルテレビ、喫茶コーナーと連携した取り組み(久世)
- ・テラスの活用(久世)
- ・小さな子どもが活動できるスペースと、絵本のスペースが分かれている安心できるスペース作り(久世)
- ・図書館が2階にあるのは行きにくい(美甘)
- ・1階で検診や診療の待合者に図書館利用のアピールをしてはどうか(美甘)
- ・Wi-Fiを制限なく使いたい(湯原)
- ・ソファ、マッサージチェア(湯原)
- ・子育てコーナーにカジュアルな本も置いてほしい(湯原)

- ・カラーコピー機(蒜山)
- ・公民館、図書館、ホールなどの一体的な施設(蒜山)
- ・資料を広げられるほどのスペースがない、調べ物をする場所も少ない(蒜山)
- ・友だちとじっくりできておやつもたべれる所！犬も…(中央)
- ・ひみつばしよがほしいです！(中央)
- ・ゆっくりくつろぎたい(中央)

【本・資料の充実に関すること(計47件)】

- ・新しい本をたくさん／5件
- ・マンガを増やす／5件
- ・話題の本、人気の本コーナーを作る／3件
- ・シリーズ本が揃っていないので一つの館にまとめて置く／2件
- ・本屋大賞のコーナーを作る／2件
- ・電子書籍を導入する／2件
- ・大活字本をたくさん置く／2件
- ・科学や実験の本をたくさん置く／2件
- ・YouTubeやSNSで活動している方の本の紹介
- ・話題の本を早く借りたい
- ・本の特集コーナーをもっと
- ・古い本を整理する
- ・文庫本サイズの本
- ・読んでみたい本のリクエストをしやすくする(予約用紙とは別で)
- ・司書のおすすめ本紹介を展示ではない形でする
- ・エッセイなどの気軽に読める本を増やす
- ・古い作家の本
- ・ゲームやアニメに関連する資料の充実
- ・中央図書館のように絵本の表紙が見えるような棚作り
- ・図書館からの配本を活用して放課後児童クラブの図書を充実させる
- ・詩の蔵書を増やす
- ・色々な言語の本

- ・個人では収集が難しい本
- ・パソコン関係のコーナーは書いた人の名前順ではなく内容別に並べる
- ・市内図書館から借りた本を置くコーナーの資料を増やす(落合)
- ・月刊誌、週刊誌を増やす(落合)
- ・リサイクル図書を活用してロビーに図書コーナーを設ける(久世)
- ・子ども達が読書に親しむ機会作りとしてのゲームやアニメの活用(久世)
- ・映像資料を増やす／2件(美甘)
- ・県立図書館からの「長期一括借受コーナー」を続ける(湯原)
- ・カードゲーム(蒜山)
- ・調べるための本が少ない(蒜山)

- ・カフェのようなスペース／3件
- ・おいしいコーヒーが飲みたい
- ・ドリップコーヒーマシン
- ・喫茶店
- ・しずかであそべるところ(中央)
- ・中央館のようなコーヒーの飲める場所(落合)

【飲食等に関すること(計8件)】

- ・カフェのようなスペース／3件
- ・おいしいコーヒーが飲みたい
- ・ドリップコーヒーマシン
- ・喫茶店
- ・しずかであそべるところ(中央)
- ・中央館のようなコーヒーの飲める場所(落合)

【イベント・活動に関すること(計43件)】

- ・専門家、研究者の話が聞けるイベント／2件
- ・地域の施設と連携したイベント／2件
- ・集まって手芸をするイベント／2件

- ・本に限らないリサイクルマーケット
- ・カタログなどから希望の映画を上映してもらえる
- ・絵本イベント
- ・フェルト手芸イベント
- ・図書館の楽しさを知ることができるような企画
- ・まにわふるさとカルタを活用した企画
- ・昔の町村時代の映像や写真を鑑賞する機会
- ・ペット自慢、孫自慢の企画
- ・「今月の写真」の展示
- ・中央図書館とは違う各地域独自のイベント
- ・地区館での映画上映をもっと増やす
- ・デジタル媒体で調べる方法を学ぶ教室
- ・モンペを作るイベント
- ・七輪で食べてみる会
- ・近隣の地区館との共同イベント
- ・コースワーカー等と連携して10代向けのイベント
- ・郷土料理を作る料理教室
- ・健康麻雀をみんなでやりたい
- ・児童生徒の図書カードをポイントが貯まる仕組みにしてプレゼントをあげる
- ・子ども達に絵本に親しんでもらうために読み聞かせをもっとやってみる
- ・百人一首大会
- ・中央図書館でやっていた図書館に泊まるイベント
- ・中央図書館で好評だったイベントをアレンジして地区館でもやる
- ・昔あそび(おてだま、おはじき、ゴム段)、唱歌などを子ども達に伝えるようなイベント
- ・図書館ホームページの「Pick up」で紹介した本を全館で巡回する
- ・図書館に泊まって星観観察
- ・図書館の外にどんどん出て行くといい
- ・学びのインプットアウトプットする機会
- ・マルシェ
- ・話題の映画を上映
- ・見学など図書館の楽しさを知れる企画
- ・「北房でらこや」を図書館でやりたい(北房)

- ・学校で学んだこと、おすすめ本、学校での活動などを紹介する取り組み(久世)
- ・「勝山だんじり祭」がおわたつあとなので、幼児の部、低学年、高学年、中高生の部などで鐘とタイコのコンテスト、演奏会みたいな発表をしたらおもしろいと思います。今、輝いていない子がここに来て輝けるかな(中央)
- ・おにごっこやかくれんぼやラブラブ→すきな人と(中央)
- ・こいのえさやりがしたいです(中央)
- ・市内の学校に通っていない子ども向けにも、図書館たんけん、本の置き場所や図書館のたのしさを知れるような企画(中央)

【WEBサービス、情報発信に関すること計11件)】

- ・スマホサイトが使いやすい
- ・情報発信のSNS
- ・図書館を知ってもらうための広報
- ・子どもがいる保護者に図書館の良さを知ってもらう広報
- ・乳幼児と一緒に参加ができるイベントについて周知してほしい
- ・「まにアプリ」を活用した本の紹介
- ・テーマ展示についてもっと広報をしろたい
- ・「広報真庭」に図書館への投書用はがきをはさむ
- ・新刊のおしらせを分かりやすくする
- ・読みたい本がなかった場合に取り寄せてもらえ

- るサービスのPR
- ・学生向けに夏休み、テスト前の図書館利用のPR

【運営(計10件)】

- ・利用者と職員のコミュニケーションがあるといい／2件
- ・レファレンスサービスの充実／2件
- ・施設等に図書館の本を貸出し定期的に入れ替える

【文化・創作(計3件)】

- ・図書だけでなく美術品等を置く
- ・キッズコーナーの絵本をもっとアートに飾る
- ・市民が制作した作品を図書館に展示する

【その他(計11件)】

- ・本の紹介をしたり、人とのつながりができたりする掲示板
- ・郷土料理の紹介動画をアーカイブしていきたい
- ・特にない
- ・満足
- ・理想の図書館
- ・高梁や鏡野の人から真庭の図書館は公立でいいなとよく言われます。高梁はお店が入って主体となったとテレビで見たことがあるが、両方行ったことがないので違いがわからない。ただ、一度失ったら大変なことだとはわかります。
- ・中央図書館で資格試験の勉強に利用します。飲食ルームでゲームをして遊んでいる子に初めはとまどいました。でも暑い時、寒い時、雨の時、友だちと「図書館に行こう」とさそいあってすごしたことは町の思い出の深いところに残ると思います。よく遊んだ図書館で勉強したり、調べたり、本を読んだり、借りたりするようになるのではないでしようか。年がだいぶ大きくなったも図書館にきっと来そう。私もそれが習慣になってきました。
- ・図書館は生涯学習の舞台でもあるとここでわかりました。いろいろな講座や映画、盆踊りの余興に劇の練習もしました。たくさんの方書さんがいろいろ担当してくださっているのでしょう。図書館とともに訪れる子どもも成長していく。大人になって帰省したらあの時の司書さんがいた、なんてすてきだと思います(中央)
- ・夏頃から毎日勉強している若い女性。夢がかなうといいな、応援しています。たくさん新聞のクロスワードを毎日といっている人、見ない日はさみしいなと感じるようになりました。試験勉強で来た教え子と時々会って話すのも楽しみ。自動販売機がないとジュースもおさねないから販売機もOK。中央図書館 大好き！
- ・家の近くに友だちの家がないので、友だちと会える場所になるとうれしい(中央)
- ・あそびたい(中央)

- ・「手話言語の国際デー」や「世界自閉症啓発デー」などの機会に、図書館での資料配布や関連書籍の展示と貸出を行いたい

- ・「パパママクラス」などの母子保健事業の会場として図書館を利用するなど、事業の連携を行いたい

③市役所各部署からの提案／3件

福祉課 発達障害支援センター：

「手話言語の国際デー」や「世界自閉症啓発デー」などの機会に、図書館での資料配布や関連書籍の展示と貸出を行いたい

こども家庭センター

・「パパママクラス」などの母子保健事業の会場として図書館を利用するなど、事業の連携を行いたい



5年間のまとめ

- ① 7 館+自動車文庫による ②図書館協議会や図書
図書館サービス網を整 館そだて会議の開催な
備。資料の貸出とレファ 備。資料の貸出とレファ
レンスサービスにより、市 レンスサービスにより、市
立図書館としての基本的 立図書館としての基本的
なサービスを提供した。 なサービスを提供した。
- ③学校に蔵書管理システム ④司書のスキルアップの機会
を導入し、学校図書館 と充実させた。公共図書
と市立図書館との連携 館、学校図書館ともに、
を強化。子どもの読む 定期的な会議実施や各種
こと、知ることを支える 研修への参加により、司書
体制を整えた。 業務の質の向上を図った。
- ⑤全館での図書館そだて会議やさまざま
なイベントを通じて、市民に「図書館
に行けば何かできる」という認識が
広がり、市民とともにつくる図書館・
市民自治の拠点としての図書館のイ
メージを具体的に示すことができた。

柱 1【公共図書館としての存立基盤の整備】

- 5 年間でできたこと
- ・ 7 館+自動車文庫（ブックるん）による図書館サービス網を整えた。
 - ・ 図書館そだて会議や図書館協議会の開催など、市民と対話しながら図書館の活動をふり返り、改善するためのしくみができた。
 - ・ 資料の貸出やレファレンスサービス、図書館システムの更新により、市民の暮らしや仕事、まちづくりに資する図書館づくりに努めた。
 - ・ ホームページのリニューアル、SNS の活用など図書館の広報を行う体制を整えた。
 - ・ 様々な研修の機会をつくり、司書のスキルアップを図った。
- ▼とはいえ…
- ・ 限られた人員と予算という厳しい状況が続く中で、質の高い図書館運営を持続していくための体制をつくっていく必要がある（「縮充」）
 - ・ 図書館そだて会議等で市民との協働を進めてきたが、参加者が固定してきている。
 - ・ 高齢化で図書館を利用し続けたいが免許を返納しなくてはならないという方や入院により利用できない方などが増えてきたため、図書館サービスを「届ける」仕組みの整備が課題。



自動車文庫



図書館そだて会議

柱 2【子どもの学びへの能動的な貢献・子どもの読書活動推進】

- 5 年間でできたこと
- ・ 市内 26 校すべてに蔵書管理システムを導入し、市内全蔵書の検索・活用が可能になった。
 - ・ 学校図書館への搬送便を開始し、子どもたちが学校図書館で市立図書館の本を利用することが可能になった。
 - ・ 学校司書が市立図書館へ出向き、選書や資料借受ができる仕組みを整備した。
 - ・ 子育て支援課と連携して、乳幼児とその保護者向けに図書館の利用案内や資料の紹介を行うなど、図書館による子育て支援に取り組んだ。
 - ・ 自動車文庫の運行基準を見直し、子どもが通う施設へ出向くことを明記した。
 - ・ 中央図書館内でユースセンターとの連携事業が始まった。
- ▼とはいえ…
- ・ 学校司書の授業への参画など、「学習センター」としての学校図書館機能については、今後の課題。
 - ・ 各館でのおはなし会参加者が減少している。
 - ・ 少子化のなかで、子どもに知る喜び・読む楽しさを届け、人と本、多様な人とのつながりを作っていくこと。子どもや若者の居場所としての機能を図書館単独あるいは司書だけで果たしていくことに限界がある。

学校図書館では予算内で子どものリクエスト本を購入するのは難しいのが現状でした。連携図書がはじまり、週に1度は地区の公共図書館に出向き、直接本棚を見て選書し、学校図書館に持ち帰っています。「Aくんは怖い本が好きだったな」など子供たちの顔を思い浮かべながら選書しています。

頻繁に棚のラインナップが変わる連携図書コーナーは、いつも大人気。連携図書を始めて、本が好きな子どもが以前より増えたような気がします。（学校司書・K）



柱 3【地域資源の再評価と新たな価値の創出】

- 5 年間でできたこと
- ・ 「真庭校歌研究室」や「まにわ図書館ラジオ」などの実践を通じて、市民とともに地域の記憶を記録し、発信する方法を開発し、その価値を実感することができた。
 - ・ 真庭ならではの SDGs という視点を持って「富原茶」「山中一揆」「植物標本展」などをテーマに講演会やワークショップを実施したほか、各館で地域固有のテーマ展示や各地区館での特色棚の整備を行った。
- ▼とはいえ…
- ・ 基本的に方向性は継続。より多くの市民と日常的に活動を重ね、顔が見える関係を作りながら、地域資源をアーカイブしていく必要がある。
 - ・ 劣化が進む郷土資料のデジタル化に着手しているが、専任の担当者がいないため進捗が遅い。デジタル化後の公開・検索・利活用の仕組みも未整備。



市民とともに校歌を収集



植物標本展

柱 4【知的探究に応えるコンテンツ戦略】

- 5 年間でできたこと
- ・ 蒜山郷土博物館、放送大学岡山学習センター、岡山県立博物館など多様な機関と連携して、市民にさまざまな学びの機会を提供した。
 - ・ 市民の学びたい気持ちに応える場として、レファレンスサービスの充実や、他自治体・国立国会図書館等からの資料の取り寄せ、国立国会図書館デジタル化資料送信サービス、学習スペースの提供などを実施。
 - ・ 全館にインターネット端末・FREE Wi-Fi を整備。
- ▼とはいえ…
- ・ 図書館が地域の「知」を集積・公開していることが市民に十分知られていない。予約やリクエスト、レファレンスサービス（調べもの支援）が市民に十分知られておらず、活用されていない。
 - ・ 市による Free Wi-Fi の提供が終了するため、図書館独自で整備する必要がある。
 - ・ Free Wi-Fi など市民の情報アクセスを保障するとともに、メディアリテラシー向上支援を進める必要がある。

柱 5【市民が繋がる地域交流拠点創出】

- 5 年間でできたこと
- ・ 「勝山もちより盆踊り」「ガザ関連映画上映」「北房平和の集い」「お泊り図書館」「平安あそびでタイムスリップ」「まにわユース文化祭」など、市民提案から事業が生まれ、市民の活動と交流の拠点としての図書館という認識が広がりつつある。
 - ・ 「もちより図書館」「カフェの日」など、施設の前や施設のロビーで参加者や出店者のおすすめ本を展示したり、地域の人びとが交流しつながる場づくりを積極的にすすめてきた。
 - ・ 市民主催「猫フェス」や教育委員会「あそびのわ」、市政 20 周年事業など、行政発、市民発のさまざまなイベントに自動車文庫などで参加し、本を介した交流の場をつくることができた。
- ▼とはいえ…
- ・ 市民発案の企画やイベントが増える一方で、スタッフの負担も大きくなり、従来の司書の役割以上のことが求められてきている。社会教育や地域活動のコーディネーションといった専門性をもったスタッフを配置するなど、さらなる展開に向けた体制づくりが必要。
 - ・ 建物の構造上の制約や空間の不足から、「静けさ」と「にぎわい」の両立が難しいことがある。
 - ・ 図書館が多くの人の居場所となりつつあるが、資料の貸出にはつながっていない。



脳トレ!ゲーム大会(蒜山)



手芸倶楽部(美甘)



プチもちより図書館(湯原)



北房平和の集い(北房)



オリジナルマグネットをつくらう!(落合)



ポチ袋を作ろう!(久世)



ライブラリーオブザイヤー（Library of the Year）は、NPO 法人「知的資源イニシアティブ」が、これからの図書館あり方を示唆するような、先進的な活動を行っている機関に対して毎年授与しているものです。

【授賞理由】「真庭市図書館みらい計画」に沿ったまちぐるみの図書館活動【授賞理由の詳細】市民との対話による「図書館そだて会議」で策定したみらい計画を土台に、「あそび」の生まれる時間を大事にしながら、「生き方」「考え方」「暮らし方」の学び合いを実践している。統廃校校を含む市内の小中学校の校歌を卒業生とともに情報収集・整理・発信する「真庭校歌研究室」や、勝山高校図書委員会による「イチオシ本」展示の取り組みのように、図書館を拠点とした学びとつながりによって真庭市の一体感を醸成している。

【図書館運営の評価 について】

① 実貸出利用率	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
実利用者数全館合計	4,688	4,827	4,681	4,396	4,389
人口（各年度 4 月 1 日時点）	43,915	43,094	42,102	41,260	40,362
実貸出利用率%	10.68%	11.20%	11.12%	10.65%	10.87%

② 市民や団体、学校との協働事業数と参加人数	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
事業回数	263 回	393 回	409 回	402 回
参加人数	2,664 人 +α	3,082 人 +α	3,345 人 +α	3,732 人 +α

「第一次真庭市図書館みらい計画」では、図書館の運営状況を評価するために、定量的な指標として、①実貸出利用率、②市民や団体、学校との協働事業数と参加人数の2つ、定性的な指標として、③図書館協議会や図書館そだて会議などで市民との意見交換や対話を重ねるなかで評価される点や課題となる点を洗い出ししていくことの3つを用いてきました。

③図書館協議会や図書館そだて会議などで市民との意見交換や対話を重ねるなかで評価される点や課題

以下は 2022 年度から 2025 年度第 1 回目の協議会での主な意見。

(2022 年度図書館協議会①)

- ・ 実貸出利用率を上げるには中央図書館だけでなく各地区館が地元の人にどれくらい働きかけられるかだと思う。
- ・ 昨年、社会教育委員会で市内の図書館を視察した。各館の司書のやる気を感じた。
- ・ 図書館で本を読まなくても、集う場所としての機能があれば若者は公民館や図書館のようなコミュニティスペースに集まっていくと思う。
- ・ 公共のものは硬いイメージがあるが、SNS の発信など積極的に図書館らしくない。図書館の枠を超えた取り組みもされており、変化し続けているという印象を受ける。

(2022 年度図書館協議会②)

- ・ 図書館は静かに本を読むところという固定観念があるが、スペースを区切ってコミュニケーションできる場所になってきていると感じる。
- ・ 中央館は図書館を中心に他の様々な機能を持たせコミュニティの拠点になりつつある。
- ・ 児童から意見を集めてそだて会議で伝えた。その意見が少しずつ実現し、自分たちの意見が生かされていることを子どもも実感できている。

(2023 年度図書館協議会①)

- ・ 中央図書館の来館者数が前年より 5,000 人近く増えたが貸出に繋がっていないとのことですが、図書館が「図書」と「館」だと考えるなら、館としての機能がしっかり機能しているのだから評価していけばいい。
- ・ 「図書館そだて会議」に多くの市民に参加してもらうためにも告知を早くしてほしい。そうすれば同じ顔ぶれにはならないのではないかな。「図書館そだて会議」とは何かという説明も必要。
- ・ 各図書館に特長があり、利用される方の年代に応じた工夫がされていると思います。
- ・ 各館の共通性も増え、全ての図書館で連携はかかれていると思います。
- ・ 図書館に行ったら子どもがうるさいと怒られて、行けなくなったという話を聞いた。休日に親子で遊びに行ける場所になればいいなと思います。
- ・ 館内がにぎやかになるなら、静かに読めるスペースを作っていけたらいいですね。

(2023 年度図書館協議会②)

- ・ アンケートでは、図書館は居心地がいいとおっしゃっている人が多いですね。場としての魅力みたいなものが真庭の図書館にはあると思う。
- ・ 真庭市の図書館は、単に本を貸し出すだけではなく、多世代の居場所や市民交流の拠点として、様々な機能や活動があり、工夫がある。

そうした実態を評価するための指標があればいいなと思います。

- ・ やったことをただ報告している。一つの事業について、定員に満たなかった場合、改善すべき点は?といった話がない。
- ・ 数字はうまく利用して、やっていることをうまく発信していくといいと思います。
- ・ 子どもたちがたくさん来ているのっていいねっという図書館になるのいいと思います。
- ・ みらい計画に基づきつつ、各館がオリジナリティをもって、図書館ってこんなことができるんだ、あんなことができるんだと、集まるきっかけや遊び方とかやわらかいイメージの図書館ができあがってきたなと思います。
- ・ 協議会に出て、図書館職員の仕事を知りました。中央館も各図書館もそれぞれよくされている。そんな職員のみなさんを信頼しています。

(2024 年度図書館協議会①)

- ・ 市民の自治や学びにとって公民館は非常に重要だと思うが、真庭にはないので図書館にさまざまな機能が求められる。いろいろなイベントを図書館がやることによって来館者数としても伸びてきていると思います。ただ、これも地域格差がありますね。
- ・ 本を借りてもらう工夫や空間づくり、本の見せ方のおかげで、本を借りる人が増えているように思います。この部分も数値化できるといいですね。
- ・ 図書館によって空間、規模、立地など制約がある中で、特色を出していく努力をされていると来館者数から感じました。
- ・ 学校と公共図書館とのシステム連携ができてありがたい。学校司書が全校に週1回は来てくれるようになり、非常に充実してきた。

- ・ おはなし会に来る保護者がすごく減った
- ・ 異常気象で人の行動が変わっているという話も聞く。図書館にあてはまるかまでは分かりませんが、イベントというのは全ての館がどんどんやらないのもいいのかなという気がしています。
- ・ 図書館職員が地域に積極的に入っている。地域の会合とかにも入っていて、一緒にやろうというスタンスが見える。イベントで地域の人から声がかかることかという話もあって、やっぱり地域に出るというのがすごいなと感じてます。

(2024 年度図書館協議会②)

- ・ 各館が地域に密着した取り組みをされていて良い環境だなと思います。
- ・ 少ない人数でよくやられている。勝山小の1日図書館運営イベントの時に館長が、「真庭の図書館だから出来るよね」と言われていた。地域の方にもあたたかく見守っていただけた。都会にはない地域の良さだと思う。
- ・ 中学生が本を読んでないのは課題だと思いま

した。図書委員など、図書館と交流・連携して読書につながるのいいなと思いました。

- ・ そだて会議で出された意見をしっかり実行されている。
- ・ そだて会議の記録で、移動手段がないから行けないというのが目につきました。地域に出てきて欲しいという意見もあったと思います。学校に出張してイベントをしてくださるのもいいのかなと思いました。
- ・ 図書館まで足を運ぶ方法がないというのは市域が広い真庭市の特徴だと思った。図書館がどこまで支援できるか。
- ・ そだて会議で「音楽がかかっていたら入りやすい」という高校生からの意見について、「うるさいと思う人もいるかもしれないから慎重にしたい」と返されていた。せっかくだから、一緒に試行錯誤しながらやってみては。
- ・ そだて会議で、真庭高校にも司書がいるので連携したらいいと思った。
- ・ 美甘図書館でのそだて会議の記録に「図書館で小学生と話ができてうれしい」という意見がありました。高齢の方が小学生と交わる場というのは大切なこと。

- ・ そだて会議では、各館でできている所を見てあげてほしいと思います。異業種や地区の団体とコラボしたイベントが盛んに行われていて嬉しい。
- ・ 図書館が公民館的なこともしていて、オーバーワークもあると思う。各振興局の社会教育主事などと連携していくといいと思う。
- ・ そだて会議の参加者が固定化しているようだが、何かイベントのあるときに気軽に意見交換できる機会を持つとよいのでは。

(2025 年度図書館協議会①)

- ・ 学校図書館のシステムが整ったことは大きな成果だと思っています。司書の研修もしっかりされていて、専門的なアドバイスもいただける。
- ・ 学校の空き教室を公民館的に使って、地域と子どもたちの交流が活発になると思う。へき地でも図書に触れる機会が得られるように動いていきたい。
- ・ 運営実績からも各地区館の活動が活発になってきていると思いました。司書が少ない中で新しいことを進められていてすごい。努力が数字に表れていると感じました。
- ・ 子どもが産まれて、今まで以上に図書館に行くようになった。
- ・ 計画の改定では、市民に分かりやすい言葉に変更してもいいかも。
- ・ 次の5年間でこれだけはやるということを重点的に決めた方がいい。居場所作りは、図書館以外に公民館や学校でもやっている。それぞれの役割を活かして連携することが大切。